## 2022 年 2 月館員おすすめの本

### 『嘆きの美女』（柚木麻子）

**吉田　梨紗**

仕事を辞め引きこもりニートで外見も性格も「ブス」な 25 歳の耶居子。「嘆きの美女」という美女達のサイトにアンチコメントを書き炎上させることが趣味。しかしある出来事をきっかけに、美女達と同居するはめになってしまいます。

コンプレックスの塊の耶居子の心の根底には、美女たちへの嫉妬というドス黒い感情にまみれ、何かあったらすぐに噛みついてやろうとしています。しかし美女は美女なりの悩みがあることを知ります。コンプレックスや悩みは美女でもブスでも平等にあるもの。自分にないものに嫉妬するのではなく、自分にあるものに自信を持って生きて行くことが大切なのだと気づきます。耶居子のセリフ一つ一つが的を射ていてスカッと爽快な気分を味あわせてくれるコミカルな一冊です。（朝日新聞出版）

### 『海と山のオムレツ』（カルミネ・アバーテ）

**原　真由美**

今月は寒さが吹き飛ぶような南イタリアの色鮮やかな食が満載のエッセイをご紹介します。子どもの頃、海や山の食材がたっぷり入ったオムレツを持って祖母と訪れた海辺の思い出や、父が町から買ってきた「天国の蜂蜜」みたいに甘く、真っ赤な果肉の巨大なスイカを村人たちと分け合った幸せ、「油のなかでふつふつと揚がるお菓子の香り」で目を覚ましたクリスマスなど、著者を育んできた豊かな食にまつわるエピソードが満載です。読んでいるだけで味覚と嗅覚が刺激されることはもちろん、調理をしてくれた人への感謝や食事を共にした人たちの陽気なお喋りも聞こえてくるようです。豪華ではありませんが、地元の美味しい食材を手間と心を込めて料理し、親しい人と味わう日常がいかに大切なものであるか、自由に行動できない今こそ実感します。（新潮社）

### 『NHK 国際放送が選んだ日本の名作　1 日 10 分のしあわせ』（朝井リョウ　ほか）

**大久保美玲**

なにかと慌ただしい 2 月、すぐ読めてほっと幸せになれる 1 冊をご紹介します。本書は、全世界で放送されているラジオ番組『NHK WORLD-JAPAN』で朗読された 8 作品が収録されています。おすすめは宮下奈都『アンデスの声』。ラジオ局に「受信報告」を送るともらえる「ベリカード」（受信証明書）をめぐるおはなしで、ラジオ放送にぴったり。祖父と孫の宝石のようなきらきらした思い出に心が震えます。その他にも、上司と部下、親と子、大家さんと店子、小学生とバスの運転手など、人と人の交流の温もりを感じさせてくれる作品ばかり。どれもタイトルどおり 10 分足らずで読め、幸せな気持ちにさせてくれます。（双葉文庫）